



学校教育目標 ◎かしこく ◎なかよく ◎たくましく ◎心ゆたかに



ジャンボピーマン

体験活動の夏・・・



校長 戸野塚 晃

清夏、夕凧、夏霞、涼風、星涼し、蝉時雨・・・これらの言葉をお聞きになったことがありますか。この響きが心地よい言葉は、全部夏を表す季語だそうです。日本は何百年も四季折々の景観や文化を衣食住に取り入れ、季節に適合して生活してきた国です。夏の暑さですら、日本の文化として楽しんできた国民のはずでした。それが、災害級の気温、観測史上最高気温、日本一暑い町、熱中症警戒アラート・・・。切ないですが、夏を楽しむどころか安全と健康を日々確かめるそんな季節になりつつあります。保護者、地域の皆様、これからが夏本番です。ご自愛ください。

さて、右のグラフをご覧ください。文部科学省のある調査で回答されたデータを再分析したものです。小学生の頃に体験活動（自然体験、社会体験、文化的体験）や読書、お手伝いを多くしていた子どもは、その後、高校生の時に自尊感情（自分に対して肯定的、自分に満足している、など）や外向性（自分のことを活発だと思う）、精神的な回復力（新しいことに興味をもつ、自分の感情を調整する、将来に対して前向き、など）といった項目の得点が高くなる傾向が見られました。また、小学生の頃に異年齢（年上・年下）の人とよく遊んだり、自然の場所や空き地・路地などでよく遊んだりした経験のある高校生も同様の傾向が見られました。このことから、小学校の頃に行った体験活動などの経験は、長期間を経過してもその後の成長に良い影響を与えていることが伺えます。

左の4つの画像をご覧ください。Aは図工の授業で3年生が数えきれない数の洗濯ばさみを使って、廊下にデザインアートを作成しているところです。Bは2年生が美術館からお借りした飛び出す絵本に見とれているところであり、Cは見ての通りのジャンボピーマンです。Dは先日、1年生が水遊びをしようという学習で学年全員で水遊びをエネルギー全開で取り組んだ様子です。子どもは、多くの体験を重ねることにより、大人になる前の重要な意識と感情の種が蒔かれます。

- A
- B
- C
- D

上記のグラフも合わせて見直しますと、五感を働かせた体験が、子どもの健やかな成長に大きく影響を与えることは想像がつくはずですが、ただし、経験した内容によって、影響が見られる意識も時期も異なるようですから、子どもの健やかな成長を確かなものにするためには、何か一つの体験をするのではなく、多様な体験をすることが必要になると考えられます。

70日間取り組んだ一学期が終了します。そして、39日間の夏休みのスタートです。一年間で一番体験活動に取り組みやすい期間です。全ての子どもたちが様々な体験にチャレンジできるよう、周囲の大人ができる範囲で「意図的」「計画的」にその機会や場を設けるようにしていきたいものです。

そして、暑さ対策を万全にさせていただき、児童の健康、体力向上、そして、体験活動の充実も含めまして引き続きの地域、保護者の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。